



成長分野産業への進出を目指す共同受注体「GLIT」の9人のメンバー（GLIT提供）

## 県北の若手経営者ら

# 共同受注体立ち上げ

## 設計から試作・量産 成長分野へ進出狙う

県北地域などの若手経営者育成グループ「ひたち立志塾」に所属する9社が、共同受注体「GLIT（グリット）」を立ち上げた。中小企業単体では受注が難しい企業や研究機関からの注文を共同で受注し、医療・介護や航空・宇宙再生可能エネルギーなど成長分野への進出を目指す。設計から試作・量産までをGLIT内で完結できるワンストップの商品開発が最大の長で、他の共同受注体との連携も進めている。

二村洋輝社長は「エンドユーザーは半完成品では意味がない。GLITの強みは、グループ内で製造までできる「ところ」を挙げる。既に医療系の製品を国内の病院に納入し、成果も挙がっている。

参加企業の主な事業は、設計やデザイン、CNC（コンピュータ制御）旋盤、切削加工、表面処理、金型製作、輸出入業など幅広い。これらを結集し完全結型サプライチェーンとして機能させる。

GLITは7月、同塾内の先端技術研究会を共同受注体に発展させた。同研究会は、勉強会や展示会への共同出展などの活動を通して、成長分野産業への進出を模索してきた。しかし、研究会の名称では活動が相手企業に分かりにくく、企業単体の営業活動では限界があり難しかったという。

共同受注のメリットについて、GLIT副代表を務める切削・研削、ワイヤ加工のミックロテック（横浜市）の

GLIT代表でCNC旋盤・切削加工のエムテック（ひたちなか市）の松木徹社長は「参加企業はお互いの得意分野を知っているの

（日立市）の佐藤貴之社長も「それぞれがニッチ（隙間）な分野で仕事しており、レアなおファーにも対応できるのも強み」と話した。GLITは法人化も視野に入れた活動に取り組んでおり、生産能力を持たないベンチャー企業や他地域の共同

受注体との連携も積極的に進めたい考えだ。（大平賢二）  
GLITのほかの参加企業は次の通り。  
赤津工業所（日立市）、錦正工業（栃木県那須塩原市）、幸手スプリング（古河市）、鈴木工業所（日立市）、ゼータトレーディング（東京都港区）、日港製作所（日立市）